

ミクロ経済学の 考え方を味方にしよう

宮本 由紀 教授

Prof. Miyamoto Yuki

企業の経済

3年前期／専門部門(経済経営科目群)

学問の楽しさも、大変さも経験してほしい

— 「企業の経済」は、どのような講義ですか？

この講義は「ミクロ経済学」に焦点を当て、「消費者の行動理論」「企業の行動理論」「市場均衡」について学びます。私たち消費者が「何を」「どれくらい」購入するか？ という意思決定のメカニズムについて学んだうえで、企業がどのように生産量を決定するのか？ 市場ではどのように価格と数量が決まるのか？ と展開します。都市情報学部には経済学になじみのない学生も多いので、まずは「消費者の行動理論」から順を追って進めていくことで、少しでも自分ごととして捉え、興味を持ってもらえるようにしたいと考えています。

— 講義を通して、学生にはどんなことを学んでほしいですか。

2年生で学んできた「都市の経済」では、日常生活のなかで些細な疑問を持つことの大切さを伝え、「学問って楽しいんだ」と思える講義を心がけました。まずは日常の些細なことに興味関心を持つこと、学びたいと感じることが、学問のスタートラインなんですよ。この「企業の経済」の対象は3年生。さらに「学問の大変さ」も経験する段階に入ってきます。何度も教科書を読むこと、練習問題を繰り返し解くことの大切さを伝えていきます。学生からは「去年と同じ先生の講義とは思えない！」

学生におすすめの一冊

ミクロ経済学の力

神取道宏 著 (日本評論社)

講義の教科書の「ミクロ経済学の力」をあえて挙げます。経済学ができることがわかりやすく厳密に書かれているすばらしい一冊です。経済学をなぜ学ぶ必要があるのか、どんなときにミクロ経済学が役立つのか、数学ばかりではなく言葉で書かれています。この教科書を何度も読んで理解してほしいですね。



と言われます (笑)。

経済学視点で問題をみつめる力を磨く

— 講義で、先生が大切にされていることを教えてください。

この講義では数学的な知識も多く使います。文系の学生には数学に苦手意識を持っている子も多いですが、ぜひ数学の便利さに気づいて欲しいですね。数学は、いろいろな人に誤解なく経済学の内容を伝えるために、とても便利なツールです。

経済学は、社会問題を考える上でのひとつの道具、視点です。「言われたから覚える」のではなく、「自分がなぜそう思ったのか?」「その問題にはどんな解決方法があるか?」と、経済学的な視点でみつめる力を磨いてほしいです。自分の立場だけではなく、さまざまな立場の人の視点に立ち、かつ感情論に走らず論理的に伝えること、そしてそれを、誰でも納得ができるように説明できるようになってほしいです。

経済学に限らず、この学部には幅広い分野の専門の先生がいますので、ぜひいろいろな分野に挑戦して、たくさんの「視点を手に入れてください。先生方は学問の性質の特徴も示していただきます。興味を持って一歩足を踏み入れることで、自分の好きな学問に出会うきっかけにもなると思います。

学生の声



武田菜央さん (3年生)

高校の授業は「需要曲線」「供給曲線」というものがある前提でしたが、この講義ではそれらがどのようなものなのか？ という根本的なところから学べて、理解が深まりました。自ら問題を解いていくことが多く、難しいですがとても濃厚な時間です。先生は優しく丁寧に教えてくださるので、数学が苦手な人にもおすすめです。